

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：82680

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730688

研究課題名(和文)うつ病への集団認知行動療法の効果と認容性の総合評価：無作為化比較試験のメタ分析

研究課題名(英文)Efficacy and acceptability of group cognitive behavioral therapy for depression: a systematic review and meta-analysis

研究代表者

奥村 泰之 (Okumura, Yasuyuki)

一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会(医療経済研究機構(研究部))・その他部局等・研究員

研究者番号：50554383

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円、(間接経費) 300,000円

研究成果の概要(和文)：うつ病に対する集団認知行動療法の有効性と認容性の位置づけを比較検討するために、集団CBTと他の非薬物療法を比較した無作為化比較試験のメタ分析を行った。比較対照は、未治療、低強度介入、他の集団療法、高強度介入の4つのレベルとし、1994年から2013年までの文献データベースを検索した。

未治療と比べると、集団CBTの効果が大きこと(SMD 95% CI: -0.83, -0.54)、一方で、低強度介入と比較した効果(95% CI: -0.84, 0.23)と他の集団療法と比較した効果(95% CI: -0.46, 0.04)は認められなかった。

研究成果の概要(英文)：Despite treatment guidelines for depression placing group CBT between low- and high-intensity evidence-based interventions, the validity of the placement remains unknown. We aimed to systematically review evidence for the efficacy and acceptability of group CBT in patients with depression compared to four intensity levels of psychosocial interventions. From 7,953 records, we identified 35 RCTs that compared group CBT to non-active (k = 30), low-intensity (k = 2), middle-intensity (k = 8), and high-intensity (k = 1) interventions. Group CBT had a superior efficacy (SMD = -0.68) and a similar acceptability compared to non-active controls. Pooled results showed a small but non-significant excess of group CBT relative to middle-intensity interventions (SMD = -0.21). Over 60% of studies did not report enough information to judge selection and selective reporting bias. These results suggest the need for high-quality trials of group CBT compared to low- and high-intensity interventions.

研究分野：臨床心理学

科研費の分科・細目：心理療法

キーワード：メタ分析 メタ解析 認知行動療法 無作為化比較試験 ピアレビュー研究 研究の質 研究報告の質
認容性

1. 研究開始当初の背景

国際的には、集団認知行動療法 (集団 CBT) は、患者一人あたりに要する時間と費用を削減できること、患者同士の助け合いを促す機会を与えられることなどが期待され、その効果が無作為化比較試験 (RCT) により検討されている。しかし、集団 CBT の効果を系統的に展望している研究は Oei らの報告に留まり、その報告には多くの限界がある。Oei らは、うつ病患者の中で、集団 CBT を受けた者は、集団 CBT を受けていない者と比べて、うつ病の重症度が良好になることを示している。ただし、Oei らの報告は、質的な展望に留まり、量的に効果の大きさを統合していないこと (メタ分析を実施していないこと)、効果に着目するに留まり、集団 CBT の認容性を検討していないこと、展望に含めている先行研究の研究法が RCT に限定されていないため、内的妥当性に限界が残されること、展望に含めている先行研究は 2000 年以前に出版されたものに留まるため、時代背景が古いこと、展望に含めている先行研究の「質」を評価していないことなど課題が残されている。したがって、これらの課題を解決したメタ分析は、国際的な要請の高い研究であると考えられる。

2. 研究の目的

うつ病の治療ガイドラインでは、集団 CBT は、介入強度が中程度の非薬物療法とされている。しかし、介入強度に違いがあるとされている非薬物療法の治療オプション間の位置づけの妥当性に関する科学的根拠は欠けていた。そこで、本研究では、うつ病に対する集団 CBT の有効性と忍容性の位置づけを比較検討するために、集団 CBT と他の非薬物療法を比較した無作為化比較試験のメタ分析を行った。

3. 研究の方法

比較対照は、未治療、低強度介入 (読書療法など)、他の集団療法、高強度介入 (個人心理療法など) の 4 つのレベルとし、1994 年から 2013 年までの文献データベース (Central/PubMed/PsycINFO/Web of Science) を検索した。2 名の独立評価者により研究の質を評定した。

4. 研究成果

35 試験に参加した 3,356 症例が解析の対象となり、比較対照の内訳は、未治療が 30 試験、低強度介入が 2 試験、他の集団療法が 8 試験、高強度介入は 1 試験であった (図 1)。

うつ病の症状に関する効果を統合標準化平均値差 (SDM) で調べたところ、未治療と比べると、集団 CBT の効果が大きいことが示された (SMD: -0.68; 95% 信頼区間 [CI]: -0.83, -0.54)。その効果の大きさは、HAM-D スコアで、-2.5 ポイントに達していた。

一方、低強度介入と比べると、集団 CBT の有意な効果は認められなかった (SMD: -0.30; 95% CI: -0.84, 0.23)。他の集団療法と比べても、集団 CBT の有意な効果は認められなかった (SMD: -0.21; 95% CI: -0.46, 0.04)。

評価者 2 名が独立にバイアスへのリスクを評価した結果、臨床試験の 60% 以上は、選択バイアスと報告バイアスの評価をするための情報が公開されていないことが示された (図 2)。

結論として、うつ病への集団 CBT が他の非薬物療法の効果を凌駕するエビデンスは不十分であり、科学的評価に耐えうる質の高い研究が求められることが示唆された。

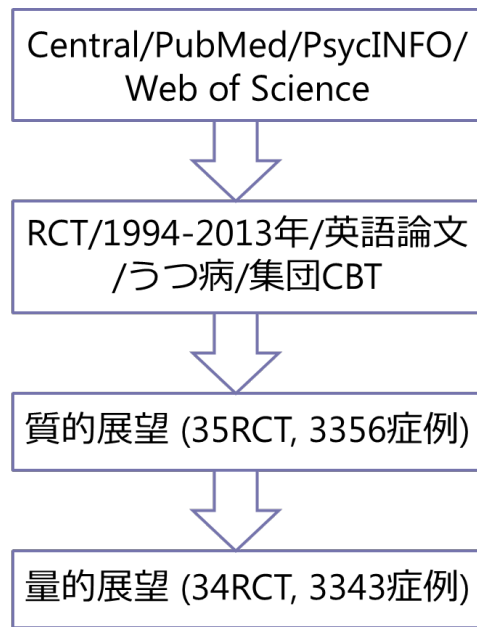


図 1 : 流れ図

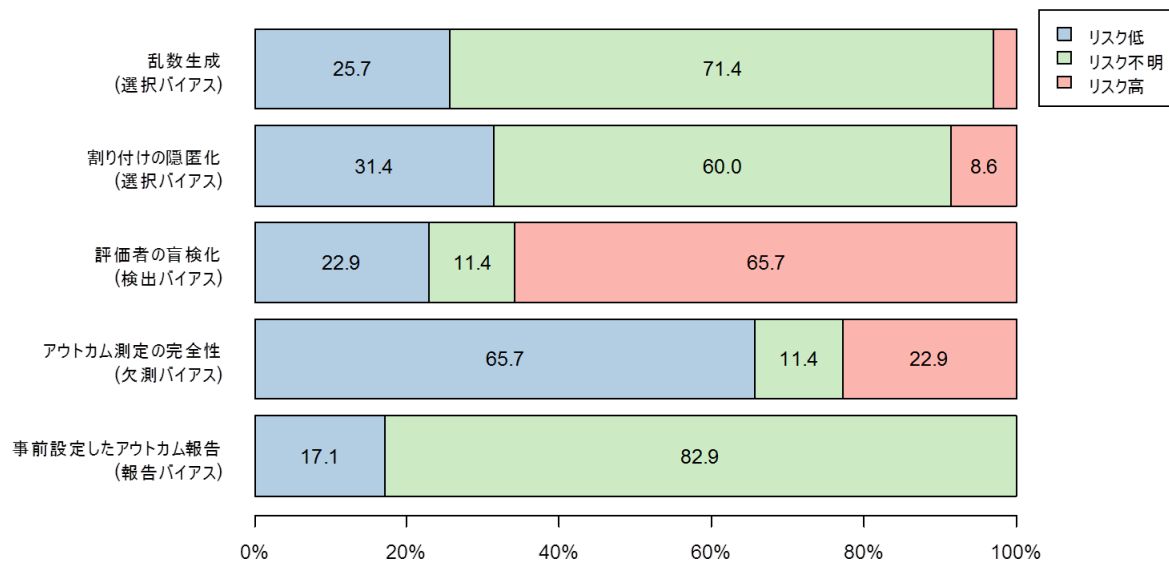


図 2: バイアスへのリスク

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

Okumura Y, Ichikura K: Efficacy and acceptability of group cognitive behavioral therapy for depression: a systematic review and meta-analysis. Journal of Affective Disorders 164: 155-164, 2014.

〔学会発表〕(計7件)

奥村泰之: 検定力分析と標準化効果量を超えて: 正確度分析と非標準化効果量. 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成23年度選定事業 融合的心理科学の創成: 心の連続性を探る 心理学における効果の大きさとばらつき, 東京, 2012.2.25.

奥村泰之: 生物医学統計のコツ. 日本行動療法学会第37回大会, 東京, 2011.11.28.

奥村泰之, 国里愛彦, 土屋政雄: 明日から使える臨床の有意性の指標: 行動療法研究に求められる統計学. 日本行動療法学会第38回大会. 京都. 2012.9.21.

奥村泰之, 土屋政雄, 竹林由武: 失敗しない研究計画入門: 観察研究、尺度研究、非薬物療法の介入研究の研究報告の質向上のためのガイドラインの理解. 日本行動療法学会第39回大会. 東京. 2013.8.24.

奥村泰之, 浅見優子: うつ病の医療経済. 第4回アジア認知行動療法会議学術総会・第13回日本認知療法学会・日本行動療法学会第39回大会. 東京. 2013.8.25.

土屋政雄, 奥村泰之, 国里愛彦: 自己報告式心理尺度の信頼性と妥当性における新しい国際基準 (Consensus-based Standards for selection of health Measurement Instruments: COSMIN) を学ぼう. 日本心理学会第77回大会. 札幌. 2013.9.20

奥村泰之: 無作為化比較試験の方法の批判的な読み方. 第1回横浜 Biologics Evidence 検証研究会. 神奈川県. 2014.3.20.

〔図書〕(計0件)

なし

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

なし

取得状況(計0件)

なし

〔その他〕

ホームページ等

2014年5月14日 医療経済研究機構「うつ病への集団認知行動療法の有効性と忍容性に関するメタ解析について」

http://www.ihep.jp/news/popup.php?seq_no=428

2014年5月26日 m3.com 「うつ集団CBTは根拠不十分: 他の非薬物療法とのメタ解析を発表」

<http://www.m3.com/clinical/news/article/218542/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

奥村 泰之 (一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 研究部)

研究者番号: 50554383

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし